

1. 事業構想評価

(1) 事業構想「目標を定量化する指標」の達成状況

目標	メニュー	指標	開始年度	目標年度	達成状況															備考
					1年目(開始年度)			2年目			3年目			4年目			5年目			
					目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率	
安定供給体制の整備推進	間伐材生産	間伐材生産経費(円/㎡)の減少率	-	R4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2年目実績値は、事業実施主体2者(生野町森林組合、北はりま森林組合)が、新型コロナウイルスの影響による木材市況の下落を受け、生産調整を実施(径級が小さい奥地林等での施策、年間工程の見直し等)したことから、新型コロナウイルスの影響により低調となったため評価対象外とし		
	高性能林業機械等の整備	労働生産性(㎡/人・日)の増加率	H30		11%	5.8%	53%	12%	-	-	13%	14.3%	110%	14.0%	10.1%	72%	15%		-	-
木材利用及び木材産業体制等の整備推進	木材加工流通施設等の整備	地域材利用量(㎡)の増加率	R4		1%			3%											施設整備事業(事業主体しそうの森の木)がR3からR4に繰越したため、調査年度は来年度R4に順延	
	木造公共建築物等の整備	木造化(補助率1/2以内)	事業費当たりの木材利用量(㎡/百万円)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		木造化(補助率15%以内)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
		木質化	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	木質バイオマス利用促進施設の整備	未利用間伐材等活用機材整備	事業費当たりの木質バイオマス利用量(㎡/百万円)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
木質バイオマス供給施設整備		R1	20	231	1155%	20	242	1210%	20	242	1210%	20								
		木質バイオマスエネルギー利用施設整備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

(注)

- 「達成状況」には、各年の目標値、実績値及び達成率(各年度の実績値/各年度の目標値)を記載すること。
- 報告年度については、要領第6の1に基づくこと。
- 各メニューの達成状況における、目標年度の目標値には下線を引くこと。
- 目標値及び実績値のうち、該当がない年度は、「-」を記入すること。
- 天災又は自己の責に帰さない事由による火災等が理由で、達成率が著しく低いと判断されるメニューについては、本報告における評価対象外とする。なお、該当するメニューについては、本報告に準じ別途達成状況表を作成することとし、その理由を記載すること。

1. 全体評価

(1) 全体指標の達成状況

目標	メニュー	全体指標	現状値			目標値			目標年度の報告			備考
			数値	単位	年度	数値	単位	年度	実績	達成率 (%)	年度	
森林整備の推進	高性能林業機械等の整備	間伐材利用量(増加率)	135,516	m <sup>3</sup>	H29	173,460	m <sup>3</sup>	R4	232,046	134%	R4	調査年月日: R5.10.18、調査方法: R4年度造林補助事業等実績及びR5年度林業機械保有状況調査による。
		間伐材の生産性(目標値)	5.46	m <sup>3</sup> /人・日	H29	6.44	m <sup>3</sup> /人・日	R4	6.5	101%	R4	
木材利用及び木材産業体制の整備推進	木質バイオマス利用促進施設の整備	地域材利用量(増加量・増加率)	279,000	m <sup>3</sup>	H29	441,000	m <sup>3</sup>	R4	462,000	105%	R4	調査方法: 令和4年木材統計、県林務課調べ 調査年月日: 令和5年8月8日
		木質バイオマス利用量(増加量・増加率)	168,688	m <sup>3</sup>	H29	343,872	m <sup>3</sup>	R4	242,187	70%	R4	農林水産統計「令和4年度木質バイオマスエネルギー利用動向調査」による

(注)

- 1 全体指標、現状値、目標値、単位については、事業計画の内容とすること。
- 2 達成率は、目標年度の実績／目標値とすること。
- 3 実績については、その調査方法と調査年月日を備考欄に記載すること。(別様可)
- 4 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 5 行については、適宜加除すること。

(2)総合評価

計画主体の評価及び今後の課題とその解決策

目標	本事業により実施した目標の分析とその評価	今後の課題とその解決策
森林整備の推進	事業実施前(現状値)と比較すると、搬出材積総量は約171% (135,516m <sup>3</sup> →232,046m <sup>3</sup> )となる中、素材生産性の伸び率が約119%(5.46m <sup>3</sup> /人日→6.5m <sup>3</sup> /人日)に高まった。	指標である間伐の効率性を高める(間伐面積当りの人工数の縮減)には、更なる素材生産性の向上が必要である。そのため、高性能林業機械の導入促進や集約化の推進など、木材生産力の強化に向けた取組みを支援することで素材生産性の向上を図るとともに、県立森林大学校による人材育成等により林業労働力の確保を図り、間伐の効率性を向上させつつ森林整備を推進し、安定的な原木供給体制の確立を図る。
木材利用及び木材産業体制の整備推進	事業実施前(現状値)と比較すると、地域材利用量は109%(279千m <sup>3</sup> →462千m <sup>3</sup> )となり、木質バイオマス利用量は約70%(168,688m <sup>3</sup> →242,187m <sup>3</sup> )となり、概ね目標が達成されており、近年の木質バイオマス発電施設向け燃料用木材需要が高まっているため、供給を増加させていくことが求められている。	指標である木質バイオマス利用量を高めるためには、更なる素材生産性の向上が必要である。そのため、高性能林業機械の導入促進や集約化の推進など、木材生産力の強化に向けた取組みを支援することで素材生産性の向上を図るとともに、県立森林大学校による人材育成等により林業労働力の確保を図り、間伐の効率性を向上させつつ森林整備を推進し、安定的な原木供給体制の確立を図る。

(注)

- 1 目標ごとに事業評価を分析したうえでその評価について記述するとともに、事業実施上明らかとなった今後の課題とその解決策を記述すること。
- 2 報告年度については、本要領第7の1に基づくこと。
- 3 本表には、目標ごとに評価等を記入すること。
- 4 行については、適宜加除すること。